

## 令和2年10月 データから見た業界の動き

### ■ 概 況

10月の山梨県内のD.I値は、業種全体で売上高は▲34ポイント（前年に比べ+10）、収益状況は▲34ポイント（前年に比べ▲2）、景況感は▲46ポイント（前年に比べ▲14）となった。

売上高のD.I値については、前年同月が消費税10%へ増税されことに加え台風19号の影響から売上に大きく影響し悪化したことから、今期のマイナス幅が減少しているため、売上状況が回復傾向にあるとは考えてにくい。

業種別では、製造業は売上高▲45（前年に比べ▲5）、収益状況▲55（前年に比べ▲30）、景況感▲60（前年に比べ▲35）となった。

菓子や麺類製造では、一般消費の需要拡大が続いているほか、GoToキャンペーン等による好影響からお土産用の製品では回復傾向との報告がある一方で、織物や宝飾製品等製造業では展示会や販促イベントの実開催が出来ない影響は大きく、まだまだ厳しい状況にある。

機械器具製造においては、大手の稼働状況は回復傾向という報道もあるが、本県では下請け事業者も多く、先行きの見えない不安感が続いている様子も伺えた。

非製造業は、売上高▲27（前年に比べ+20）、収益状況は▲20（前年に比べ+17）、景況感▲37（前年に比べ±0）となった。

電気機械器具小売業では、感染症対策に対する助成制度により空調関連商品の需要が大幅に拡大、食肉小売・宿泊・建設業の一部で前年並の売上げが確保できたとの報告があった。しかし、商店街や小規模な店舗が多い美容業では資金繰りが悪化した組合員が増えており、さらに景気は後退するのではないかと懸念されている。

バスやタクシー等の運輸業界では少しずつ人の動きを感じられているものの、例年の観光シーズンの様相とは違い、昨年度対比の売上げが▲80%まで落ち込んでいる事業者もあるとの報告であった。

10月のD.I値は製造業、非製造業共に前月9月より全ての項目で改善が見られた。GoToキャンペーンが本格的に稼働され徐々に経済活動が安定の方向に向かっていると考えたいが、新型コロナウイルス感染症の抜本的な解決方法は未だ見当たらず、人の動きが活発化するで感染症が拡大するリスクも多く、景気の改善は当面難しいのではないかと見方をしている事業者が多い。休廃業を選択する事業者が全国的に増加傾向にあると言われており、県内事業者の動向を注視していく必要がある。中央会では各種専門家の派遣事業を用意し、中小企業者が抱える問題点・課題についての解決に導く支援を強化している。

### ■ 業界からのコメント （業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照）

#### ● 製 造 業

食料品 (水産物加工業)	菓子製造業では、巣ごもりによる需要拡大が続いているため売上げは前年同月134%であった。
-----------------	--

食料品 (洋菓子製造業)	水産物加工業では、葬祭用の引出物需要はあったが、業務用の売り上げが下がっているため前年同月64.8%であった。
食料品 (麺類製造)	GoToトラベルキャンペーンの影響でお土産等の販売は多少の売り上げ回復となっているが、前年同月と比べ▲50%となった。
食料品 (パン・菓子製造業)	コロナ禍で4月以降は厳しい状況が続いていたが、10月に入り売り上げは少しずつ回復傾向になっている。
食料品 (酒類製造業)	長引くコロナ禍で、飲食店や観光業の景況が悪化しているため、ワインの売り上げも減少している。
繊維・同製品 (織物)	服裏地・傘地・インテリア関係・ネクタイは、前年同月と比較すると発注が少ないが、少しずつ売り上げが回復してる。
繊維・同製品 (織物)	10月の売り上げは前年同月▲70%となった。今後は、11/18(水)～19(木)に東京国際フォーラムで開催予定のJFWジャパン・クリエーション2021に組合員企業が出展を行い、県外のバイヤー向けに商品の紹介やPRを行い新規取引先の獲得を目指し商談を行っていく。
家具製造	現状の売り上げは前年同月とほぼ同様であるが、今後の見通しに関しては不透明な状況にある。
印刷・同関連業	イベントやセミナーが中止され、さらに取引先の不況の影響もあるため、印刷物の発注が減少し、前年同月比で▲20%の売り上げとなった。組合員では助成金や融資を活用している企業がある。
窯業・土石 (砂利)	11月は繁忙期を迎え、需給量の増加が見込まれる。長期的には公共工事が計画通りに進めば骨材需要も大幅に増えると予測している。
窯業・土石 (山碎石)	コロナの影響で工期が伸びていた工事が終盤にさしかかって来たので、舗装工事関係資材の出荷が伸びている。累計出荷数量で比較すると昨年同月と変わらない現状である。

鉄鋼・金属 (金属製品製造業)	組合では海外へ製品を輸出している企業が多く、コロナの影響で取り引きが制限されていたが、徐々に回復傾向となっている。売り上げは前年同月と比較すると▲30%程減少している。
一般機器 (業務用機械器具製造業)	業界では少しずつ受注が回復傾向となっているが、コロナの終息が見えず経済がダウンする不安もあるため先行きは不透明な状況である。
一般機器 (生産用機械器具製造業)	コロナの影響により受注が減少しているため、前年同月よりも売り上げは▲46%程減少。働き方を調整し、雇用調整助成金を活用している企業がある。今後の見通しについても不透明な状況である。
電気機器 (電気機械部品加工業)	10月は大手製造業(半導体、ロボット、車など)の生産が多少上向いてきているとの情報があるが、下請けの中小企業は依然、仕事量が少ない上に、コスト競争が激しく、先の見えない状況が続くと考えている。
宝飾 (研磨)	10月は組合が主催した第71回ジュエストーンフェア inKOFUに出展を行い売り上げが増加した組合員企業があるが、業界全体での売り上げはまだまだ厳しい状況にある。
宝飾 (貴金属)	県外での展示会やイベントの開催・販売が出来ないため、前年同月比で▲60%の売り上げとなった。

## ● 非製造業

卸売 (紙製品)	コロナ禍の影響による消費の減少と共に物流が減少により、使用される梱包材も減少している。加えて、国のデジタル化による影響が地方にも波及しオフィス紙の使用量と排出量も減少している。業界の縮小化が新聞、雑誌の減少と同様に進んでいくと考えている。事業の再構築を模索している。
卸売 (ジュエリー)	国内外の展示会やイベントの開催が中止となっているため、前年同月比▲30%の売り上げとなった。10月以降で展示会やイベントの開催が再開してきているが売り上げ・収益面共に厳しい状況である。
小売 (食肉)	GoToキャンペーンの影響で飲食店での外食や観光客が増加したため、食肉の売り上げは前年同月と同等まで回復してきている。業界全体の景況感としても回復傾向にある。

小 売 (水産物)	外国人観光客が減少しているため飲食業関係への売り上げや冠婚葬祭の規模縮小により業務用の売り上げが減少している。
小 売 (電気機械器具小売業)	10月は山梨県グリーンゾーン構想に基づく助成制度により、空調関連の商品への需要拡大があったため、前年同月よりも大幅に売り上げが増加した。しかし、事業者間の格差は拡大し、良い店と低迷の店との違いが目立つ結果となっている。
小 売 (ガソリン)	10月は原油価格・為替の変動も少なく、流通市場においても大きな動きはなく安定していたが、地域によっては前年同月と比較しコロナウイルス感染拡大以前の販売数量に戻らないガソリンスタンドがある。
商 店 街	コロナウイルス感染拡大の影響により、イベントや行事の開催が出来ない状況が続いている。今後は、今まで以上に景気が悪化すると見込んでいる。
商 店 街	GoTo商店街への申請を計画していたが、補助事業対象外であるため規模を縮小し自己財源として歳末セールや新春プレミアム商品券等のイベントを行う予定である。
不動産取引業	組合で取り扱っている分譲地の販売を積極的に行い、売り上げを伸ばしていきたい。
宿 泊 業	10月はGoToトラベルキャンペーンの効果もあり、週末は満室となるホテル・旅館も多く前年同月と同等まで回復した。今後も感染予防策を行いながら、売り上げの回復を目指していきたい。
美 容 業	個人店は固定客との信頼関係のもと、コロナ対策等の衛生管理に気を付けて営業しているが、来店頻度の減少から売り上げが伸びず、高齢で一人で営業を行っている店舗では組合への賦課金の資金繰りが困難な組合員の脱退がある。新規創業する若手経営者もいるが、店舗経営での資金繰りが厳しく、組合加入に結びつかない。
一般廃棄物処理	業界での人材募集は厳しく、入社しても長続きせず常に人が入れ替わりしている状況であり、人手不足ではないが人材は不足している。

警 備 業	土木工事警備の売り上げは増加傾向にあるが、高単価のイベント警備収入が少ないため全体での収益は前年同月よりも低下している。公共工事は順調で昨年並みに増加しており、警備員の稼働率も向上しているが、民間工事では景気低迷の影響により警備員の派遣が削減した。イベントは徐々に回復してきているが、例年と比較すると小規模での開催のためイベント警備での売り上げはあまり期待できない状況である。
建設業 (総 合)	10月の県内公共工事動向によると、前年同月に比べ件数4%、請負金額では3%とそれぞれわずかに増加した。10月末累計では、件数は10%増加しているものの、請負金額は1.8%とわずかな増加にとどまっている。
建設業 (型 枠)	10月は例年通り仕事が確保出来た。公共工事及び民間工事が減少しているため、11月以降の仕事に関しては例年よりも減少する見込みである。
建設業 (鉄 構)	首都圏依存の高い山梨県では元々オリンピック開催が予定されていた時期のため物件数は少ない。今後、増加傾向となる見込みであるが、工事の開始時期が遅れており、完成する物件が少ない。今年度は物件の見込みはあるが、来年度以降の計画については不透明な状況となっている。
設備工事 (電 気 工 事)	コロナ禍においても、民間投資などにより工事量の大きな落ち込みはない状況である。来年以降の建設需要の落ち込みが想定される中、今後の建設投資の変化に注視していく必要があると感じている。
運 輸 (タ ク シー)	補助金や給付金等を活用している。少しずつではあるがお客さんが回復傾向にある。
運 輸 (バ ス)	学校関係の遠足や修学旅行等のイベントが動き出してきた。業界としては秋のトップシーズンとして毎年忙しい季節となっているが、前年同月▲80%まで減少している。

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値（好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値）

対前年・前月・当月	製 造 業			非 製 造 業			合 計		
	2019/10	2020/9	2020/10	2019/10	2020/9	2020/10	2019/10	2020/9	2020/10
売 上 高	-40	-65	-45	-47	-53	-27	-44	-58	-34
収 益 状 況	-25	-60	-55	-37	-37	-20	-32	-46	-34
景 況 感	-25	-65	-60	-37	-47	-37	-32	-54	-46

※（（良数値÷対象数）×100）－（（悪数値÷対象数）×100）＝D. I値

